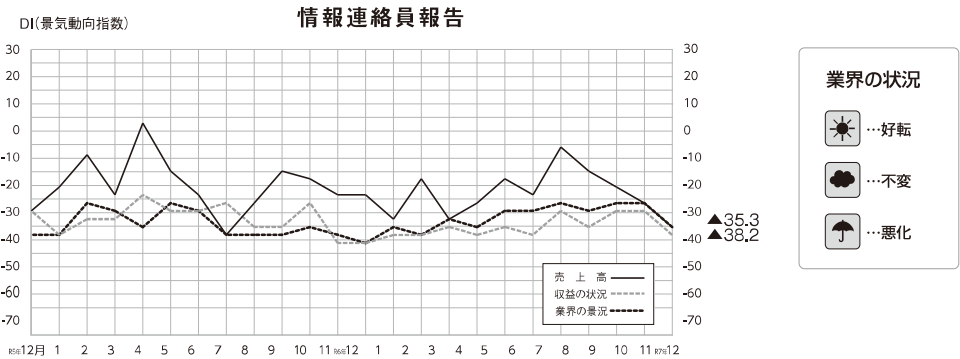




	旅館・ホテル	12月宿泊人数は前年を超え、マーケットの動きは活発であるが、人手不足で受け入れられない部分がある。リネン業者の供給が不安定で、客室稼働率の最大化に苦慮している。
--	--------	--

	食品団地	景況感は業態で異なるものの、全体的には「変わらない」と見ている企業が多い。その背景には、原材料費や物流費の高止まりのほか、人手不足等によるコスト増、消費者の節約志向の高まりといった懸念材料がある。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格への転嫁ができつつあると思われる。製品の値上げは落ち着いた雰囲気だが、まだまだ厳しい状況である。
	木製品素材生産	12月期の原木出材量は、天候にも恵まれ順調に入荷している。しかし、丸太価格については、依然として引き合いはあるものの製材品の価格が上がりず全体的に横ばい状況。年が明け一部で若干の積雪があるものの順調に入荷している状況であり、年度末に向け増産に期待。価格については、柱適材(槽3m)が若干値下がりしている状況もあるが、全体的にはほぼ横ばいとなっている。今後の原木価格についても、市況の動向が見逃せず大きな変動は見込めない状況。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体としては、先月に続き、販売金額は前年同月比で増加したが、販売量及び生産量は減少した。品目別では、衛生用紙、雑種紙ともに販売金額が前年同月比で上回ったのに対し、販売量はともに下回った。
	製紙(手すき和紙)	今月は、前年同月より動きがあり、売上が少し上向きになったが、まだまだ安心はできない状態。世界情勢も不安定になっているので、今後の状況が読めない。
	生コンクリート製造	12月度の組合員の単月出荷量は、対前年比80.5%、4月からの累計出荷量も対前年比83.0%で引き続き低調であった。地域的には、中部・高橋地区は増加傾向にあるが、その他の地区は対前年比70～80%前後で、特に嶺北地区の減少が大きい。
	コンクリート製品	対前年同月比86.8%。補正予算の状況等から、今後は前年度並みに推移すると考えている。
	刃物製造	今月は昨年と比べ海外への発送が少なくなったが、小売販売が良く、売上としてはほぼ変わらない金額となっている。
	機械団地	この1年を振り返って、防災関連製品等の受注がある企業においては、堅調に売上を伸ばすことができたとする声があるものの、その他の企業では、需要の低迷や設備の老朽化、人手不足などが影響し、一進一退の業況が続いている。
	船舶製造	高水準の生産が継続している。
	珊瑚装飾品製造	12月度の取引額は前年同月比で153%となり、8カ月連続で前年を上回る結果となった。しかし、コロナ禍以前の水準までの回復には至っていない。
	生鮮魚介卸売	カツオの漁が減ってきて、マグロ類の入荷も少なかった。やはり天候に左右される。ブリも不漁で大変である。
	中古自動車小売	普通車、軽自動車ともに高年式車両及び低走行車両の販売が増えており、販売単価も上昇している。ただ、慢性的な相場高騰、流通量の少なさが販売面に影響しており、注文車両等仕入れに苦戦を強いられていることは変わらない。

	商店街(高知市)	12月の駐車場利用台数は、前年同月比102.4%(816台増)となった。主な要因としては、「クリスマスマーケットin高知2025」の開催により利用が増加したことが挙げられる。また、料金収入についても前年同月比104.8%(415千円増)と増加した。人流カメラによる集計では、12月の来街者は前年同月比0.6%増となった。また、12月12日から25日まで東洋電化中央公園で開催された「クリスマスマーケットin高知2025」では、期間中に約15万8千人の来街者が訪れ、大きな賑わいを見せた。加えて、今年は商店街においても5日よりイルミネーション装飾を実施し、クリスマスムードの演出に努めた。
	商店街(四万十市)	12月恒例の通行量調査を各商店街で行った。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比103%、全旅クーポン合算後80%。トータル売上では前年同月時点売上110%で推移している。
	IT事業	12月の売上は前年同月比で約2倍(+102%)となり、大きな伸長を記録した。単月としても高水準で、事業成長が明確なトレンドとして表れている。年末にかけて複数の重要案件が進行し、直近数年間でも高い12月の実績となった。また、11月に迎えた20周年という節目を経て、社内外の結束を保ったまま年末を迎えられた点も成果の一つである。体制面では新たなメンバーの参画により対応力が向上し、従来領域に加え、AI活用など新たな分野においても案件受注につながっている。今後も、積み上げてきた信頼を基盤に、安定成長と新領域への取り組みを進めていきたい。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比172.0%となった。高知中央・香長地区が増加したものの、安芸・須崎地区が減少した。
	一般貨物自動車運送	軽油価格は政府補助金が最大となったことで円安が進行しても5円以上の値下げとなったが、物量は低迷したままとなった。1月も休日や天候等が売上へ影響するのではと懸念される。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:102.4%、回数:99.0%、実働率:51.6%。地域アプリ「こちタク」で利用者を増やすことを考え、高知市ではクリスマスクーポン、居酒屋クーポン等を出しており、業界にとっても増収になることを考えてくれている。年末にかけて活気づくと良いのだが、…と同時に、運転者の増加にも期待したい。

	酒類製造	昨秋、また今春の値上げの影響が懸念される。県外の酒の動向にも注視か。
	製材	需要が乏しいなか、あらゆるコストが上昇してきており、収益面は厳しい状況が続くとの声が多く聞かれる。
	建具	年末の障子・襖の貼り替え工事は少なかった。全体的に仕事量が少ない。脱退者も出て来ている。
	印刷	先月に引き続き売上・操業度ともに前年対比は割れている。県内需要は厳しく、特に官公庁の需要が激減の感。県外需要については前年並みに回復している模様だが全体は厳しい。1月以降、政府の物価対策による地域振興券等の特需が開始されたのに期待したい。
	卸団地	企業や団体の忘年会は、コロナ以降は年々回復傾向にあるが、以前より縮小気味になる傾向がある。また、物価高の影響もあり、客単価は上がっているようだが、利益に反映される状況ではない。景気回復は感じられない。最低賃金改正による影響が来年から出てくる。日銀金利引き上げによる収益が圧迫されるのでは。店頭での動きが良くない。
	青果卸売	12月の取扱高は、組合員全体で前年対比82.1%となった。人件費や経費も上がり、お歳暮商戦も振るわず苦戦した月となった。今年の1月から12月までの累計も91.6%となり、厳しい状況ではあるが、年々に期待。
	各種小売(四万十町)	12月は当組合主催の歳末福引会と、ポイントアップセールを実施した。福引は2年ぶりの開催であったが、来客数は過去最少で、ポイントセールの結果も前年を下回っていた。ポイントカード保有者の町内での買い物が減っていることを裏付けており、毎年特需があった年末でも厳しい状況となっている。個店単体での取り組みにも限界があり、何らかの施策を講じてい必要も感じている。
	電気機械器具小売	12月は、全商品平均で前年比92%。リフォーム関連金額で前年比84%、省エネタイプエアコン前年比94%、4K8K大画面テレビ前年比88%であった。
	ガソリンスタンド	12月末をもってガソリンの暫定税率は廃止となった。軽油については4月1日廃止とのことで、補助金が17.1円出ている。原油価格は下落している。高知県市況は乱売気味で価格は不安定でばらつきがある。
	商店街(安芸市)	毎年恒例の歳末大売出しを実施した。
	飲食店	集客は前年同月を下回る、販売価格は上昇しているので売上高は前年同月と同程度だが、物価高に価格転嫁が追いついておらず、収益は悪化している。前年同月に比べインバウンド、県外、共に観光客は減少。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費、仕入れ価格、人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	ガソリン価格は抑制され、燃料費の高騰はある程度緩和されたが、資材価格は上昇傾向にある。物価高による消費者の節約志向は依然強く、加えて最低賃金アップによる賃金上昇が利幅を圧迫している。入荷点数減少による売上減少、経費UPによる利益幅減少傾向が続いている。リネン・ユニフォーム関係は堅調だが人手不足感が強い。
	一般土木建築工事	全体的に工事発注件数が少ない。少ない中で落札しても条件が悪い工事もあり収益率が低くなっている。